

2019年度

国 際 学 部

専門ゼミナール選択オリエンテーション資料

目 次

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領	・ ・ 3
専門ゼミナール選択指導について	・ ・ ・ ・ ・ 4
2019年度専門ゼミナールⅠ一覧表	・ ・ ・ ・ ・ 6
2019年度専門ゼミナールⅠ概要	・ ・ ・ ・ ・ 8
専門ゼミナール志望調査票	・ ・ ・ ・ ・ [別配付]

国際学部

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領

本年度の専門ゼミナール選択オリエンテーションを次の要領で開催します。

○日時： 2018（平成30）年9月14日（金）13：00～16：30

○場所： 6401教室

○内容： 国際学部の現2年生に、来年度から履修する専門ゼミナールの内容や選択方法について説明します。

○当日の予定

13：00～16：30 国際学部全教員ゼミ紹介
+ゼミ選択の方針、スケジュール説明、志望調査票配布

*スケジュール

志望調査	志望調査票 配布	研究室訪問・ ゼミ見学等期間	第1志望調査票 締め切り	第2志望調査票 締め切り	第3志望調査票 締め切り
期日	9/14(金)	9/14(金)～ 10/19(金)	10/19(金) 16：40 まで	11/14(水) 16：40 まで	11/30(金) 16：40 まで

詳細は次ページをご覧ください。

国際学部 2 年生の皆さんへ 【重要】
—2018 年度専門ゼミナール選択指導について—

2018/9/14

国際学部教務委員会

1. 専門ゼミ選択についての方針は以下のとおりです。

- (1) 専門ゼミナールは国際学部学生の必修科目で、3・4 年次の 2 年間（専門ゼミナール I～IV）にわたり同じ教員のもとで指導を受けることとなります。これは、専門ゼミナールが「国際学部における知の再編と創造の集大成の場」として大変重要だからです。したがって、ゼミ選択にあたってはこれまでの学習への総括とともに、これからの学習研究計画、将来の自分のあり方などを考え、慎重に選択をしてください。
- (2) 専門ゼミにおける学習上の効果を保障するために、**最少定員（10 名）、最大定員（最も大きい場合で 18 名）**を定めます。なお最大定員については、皆さんの志望を尊重する一方で、教育水準の維持を考慮して設定される「ここまでは受け入れることが出来る人数」であり、必ずしも「受け入れなければならない」という意味ではありません。したがって、各ゼミにはそれぞれ異なる最大定員に関する枠が設けられ、各教員の判断で受け入れ人数を調整することとなります。
- (3) **第 1 志望者が、各教員が設定した定員枠を上回った場合には、各教員が選抜をする場合があります。**第 1 志望への所属がかなわなかった学生諸君は、その後あらためて志望ゼミナールを選んでいただくこととなります。その際の受け入れ可能ゼミの条件等については、当該者に別途連絡します。
- (4) 1 名以上の志望者がいる場合にはゼミを開講します。ただし、志望者が 1 名の場合には当該学生の意見を聞き、志望ゼミ所属についてあらためて確認をしたいと考えています。志望者ゼロの専門ゼミナールについては非開講となります。
- (5) 1 年次の領域選択時のアナウンスに則り、**専門ゼミ選択は所属学科・領域にかかわらず、原則として自由に選択することができます。**皆さん方が志向する専門領域によっては、他学科所属の先生方のゼミが適している場合が十分に考えられますので、web 情報を十分に精査してください。ただし、指導に不可欠な特定科目履修がなされていないなど、ゼミの専門性確保が困難となり、ゼミを指導していく上で目標が達成されない恐れがあるといった理由がある場合に限って、担当教員は自身が所属する学科の学生（あるいは別の学科の学生）を優先的に選抜する場合があります。この場合は予め、その旨を web 情報で公開のうえ、教員からオリエンテーションでも説明をします。

2. 専門ゼミ選択指導のスケジュールは以下のとおりです。

- (1) **各専門ゼミに関する情報を 9 月 7 日（金）より web ベースで公開します。**皆さんはそれを閲覧し、確認しておいてください。
- (2) **専門ゼミオリエンテーションを 9 月 14 日（金）に実施します。【6401 教室予定】OT では全てのゼミ紹介を聴いてください。途中退出は禁止です。OT の最後に「専門ゼミ志望調査票[第 1 志望]」を配布するとともに、教務委員会よりスケジュール、諸注意を伝達します。**

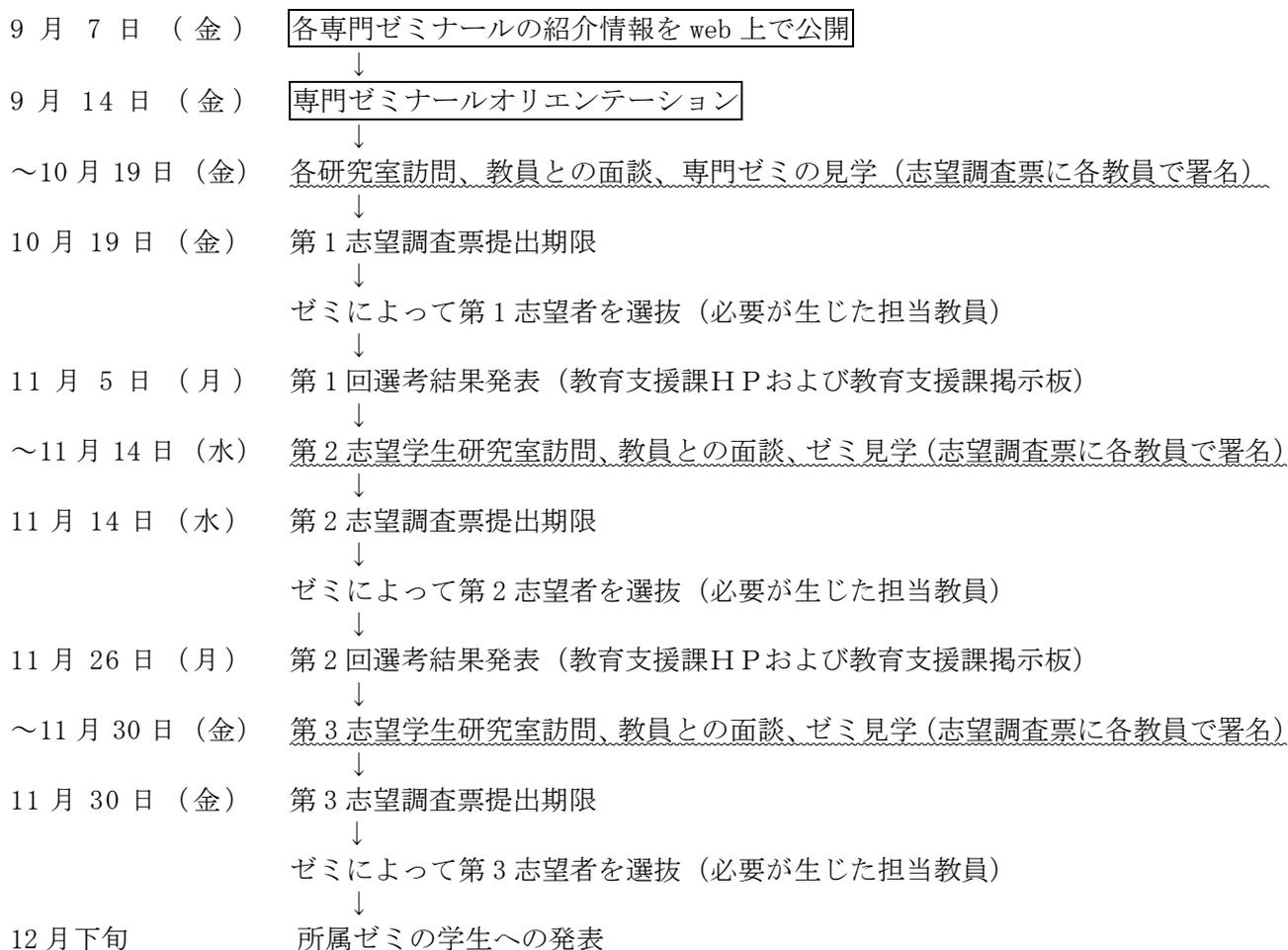
<当日の予定> 午後：13：00～16：30 国際学部全教員ゼミ紹介

+ゼミ選択の方針、スケジュール説明、志望調査票配布

- (3) 選択指導のための時間を長く取り、複数の研究室訪問、ゼミ見学などが出来るようにスケジュールを設定しています。皆さんは、志望調査票に所属を志望する担当教員からのサインをもらった上で、10 月 19 日（金）までに調査票を教育支援課まで提出してください。
- (4) 学生諸君は (3) の期間中、志望する専門ゼミの見学、研究室の訪問などを積極的に行い、先生方と話し合うなどして情報をさらに集め、志望ゼミを選択するように努めてください。その際、訪問した研究室の教員、所属を志望する教員からのサインをもらってください。**特に第 1 志望ゼミの教員のサインが無い調査票は無効となりますので注意してください。**当該の先生が長期不在の場合には各学科長（国際理解学科：阿野先生、国際観光学科：小島先生）、もしくは教務委員長（高井）まで相談に来てください。

(5) その他、疑問等がある場合には教育支援課窓口、あるいは高井先生まで相談に来てください。

<参考> 専門ゼミ選択指導のスケジュール



専門ゼミナール I 一覧

No.	教員名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入上限	研究室	シ
1	赤坂 雅裕	理解	「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関すること	特になし	10名	6213	8
2	阿野 幸一	理解	英語教師になるための指導力養成 コミュニケーション能力育成のための英語指導法	英語教職課程の学生を主な対象とするため、教職科目全般	10名	6309	9
3	生田 祐子	理解	「平和を創り、世界と未来へつながるコミュニケーション」	英語コミュニケーション論、英語教職、国際協力、国際理解の関連科目	10名	6407	10
4	井上 由佳	観光	楽しみ学べる交流の場を創る！	「交流文化論(A,B)」「文化政策論」「博物館教育論」	10名	6308	11
5	奥田 孝晴	理解	「国際学の鍋」づくり:「知の運動の守備範囲」はイチロー並みに広く、大迫のようにハンパナイ。	特になし(シラバス参照)	10名	6406	12
6	海津 ゆりえ	観光	エコツーリズム・サステナブル・ツーリズム:地域振興と環境保全を担うこれからの観光を考える	「エコツーリズム論」「観光資源論」「地域プロジェクト演習」	12名	6307	13
7	金井 恵理可	理解	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困	法学系の科目1科目以上(ただし担当者は問わない)	10名	6418	14
8	北野 マグダ	理解	Culture in Media	「ESP F」 English writing course English discussion and debate courses	13名	6412	15
9	栗原 剛	観光	観光マーケティングの実践	「観光マーケティング論」、「消費者行動論」	15名	—	16
10	黒沢 直樹	観光	ホテルマネジメント及びチェーンホテルオペレーション	特になし	12名	6411	17
11	小島 克巳	観光	交通事業・交通政策研究 ～観光や地域における交通事業の役割と交通政策のあり方～	「交通事業論」「エアラインビジネス論」「エアラインサービス論」	12名	6317	18
12	齊藤 功高	理解	国際法の研究—国際社会を国際法の視点から読み解く—	「法学入門」「国際機構論」「国際理解と法」「国際人権法」	10名	6216	19
13	椎野 信雄	観光	<社会>とは何だろうを、自分なりに理解し、日常生活を送っていくための知識を身につけ、「社会人」/「市民」として社会に生きていくこと	特になし(シラバス参照)	10名	6314	20
14	塩沢 泰子	理解	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力(特に英語)養成	「英語とメディア」「英語オーラル・コミュニケーション論」	12名	6315	21
15	菅原 周一	観光	日本経済の成長を将来牽引することが期待できる企業(エアライン、ホテル・旅館業、ブライダル業、旅行業等の観光業を含む)に関する調査・研究	「国際観光と会計」	15名	6415	22
16	杉山 富士雄	観光	食う・寝る・遊ぶの経済学	「経済学」「経営学」「法学」など社会科学系の科目	10名	6212	23
17	高井 典子	観光	トラベル・ビジネス 観光行動 インバウンド観光	「国際観光論」「トラベル・ビジネス論」「旅行法規」	12名	6310	24

No.	教 員 名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目	受入 上限	研究室	ページ
18	千葉 克 裕	理解	「理論に基づいた効果的な英語の学び方と教え方」	英語学概論、英語音声学、英語表現、心理学など	10名	6304	25
19	那 須 一 貴	観光	経営管理、マーケティング、ブランディング	特になし	14名	6409	26
20	林 薫	理解	「持続可能な世界の実現」	「開発と国際協力」「資源と国際協力」	12名	6306	27
21	黛 陽 子	観光	ヘリテージ・インタープリテーション技術と取組みの精神の学び 「知る・調べる→伝える→つなぐ→解決策」 一見しただけでは見えにくい大切なものを理解し伝え、残す	「インタープリテーション論(理論・応用)」	12名	6417	28
22	宮原 辰夫	観光	ゼミ生の関心や興味のあるもの	宮原先生の担当科目	10名	6405	29
23	本 浜 秀 彦	理解	国際日本研究	「現代日本の諸問題」「日本の地理と歴史」など	10名	6311	30
24	山 崎 裕 子	理解	世界の文化と宗教を哲学する	特になし	10名	6410	31
25	山 田 修 嗣	理解	「まちづくり」における市民参加と地域社会 ～「望ましい社会」の形成における市民の役割と持続可能性の考察～	特になし	11名	6209	32
26	横 川 潤	観光	ホスピタリティとフードのマーケティング ～企画力やプレゼン力を身につける～	特になし	12名	6413	33
27	渡 邊 暁 子	理解	「文化人類学から現代社会の課題を考える」 キーワード: 貧困、格差、社会的排除、人の移動、マイノリティ	「文化人類学」、「国際協力論」、「NPO・ボランティアの理論」、その他国際学部 の関連科目	12名	6305	34
28	A	理解	外国語教育		18名	—	35
29	B	理解	異文化理解		18名	—	36
30	C	観光	観光学		18名	—	37
31	D	観光	ホスピタリティ		18名	—	38

※ 説明会当日の説明順序とは関係ありません。

担当者名	赤坂 雅裕 (あかさか まさひろ)
e-mail アドレス	akasaka@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6213
出講日	月・水・木・金曜日
ゼミの開講時間	木4 (3年生)、木5 (4年生)
担当科目	[春学期] 教育原理、教職概論、地歴科教育法Ⅰ、公民科教育法Ⅰ、総合演習、4年・3年ゼミ、教育実習(中・高校) [秋学期] 道德教育、特別活動論、4年・3年ゼミ、教育実地研究、地歴科教育法Ⅱ、公民科教育法Ⅱ、教職実践演習、(越谷校舎の「特別活動論」)
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	私自身は、道德教育を中心として、教育学全般に関心があります。ゼミとしては、「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関するものでしたら、すべてOKです。
ゼミの内容・メッセージ	「いじめ」「不登校」「キレル子」「モンスターペアレンツ」「学級崩壊」・・・教育現場は、問題が山積しています。そして、それら「教育病理」への有効な方策を見出すことができず、先生方は心身共に疲れ果てています。 これではいけません。日本の教育を向上させる方策を我々で見出し、提案しましょう。 子どもが大好きで、教育に関心があるあなた、教師になりたいという夢を抱いているあなた、どうぞ国際学部でただ一つ教育学を専門的に学ぶことができる赤坂ゼミの門を叩いてください。 実践的指導力のある教師を目指して、共に歩んでいきましょう。
ゼミの進め方	①3年春学期は、幼稚園児等との交流学習の企画・準備・実践を行います。 ②3年秋学期から、自分の研究テーマを決め、各自の発表に基づく意見交換を行い、卒論を書き始めます。 ③4年次は、このディスカッションをもとに、卒業論文執筆に専念します。 ④卒論執筆と同時に、幼稚園児や特別支援学級の生徒との交流会、茅ヶ崎市内の小・中学生への学習支援ボランティア、1年教職課程学生に「楽校」実践、柳島卒論検討合宿、愛の湘南PK、カンボジア・スタディツアーなどを行います。 「幼稚園児から教育長まで」ふれあって、教師としての実践的指導力を養います。
留意事項 (Requirement など)	以下の2つの活動に必ず参加していただきます。①茅ヶ崎市内中学校サマースクール支援②カンボジア・スタディツアー
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接にて選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	後日します。
代表的な卒業論文のテーマ	自己有用感を高める特別活動、「生きている」を実感するための人間教育外遊びで形成される「共生」能力 など。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	赤坂ゼミは、いつも「笑顔」で溢れています。 赤坂ゼミでは、「教育」という大きなテーマのもとに、一人ひとりが自ら考え、理想の教育の在り方を追求し、楽しく議論しています。 赤坂先生が目指す「響育・共育・協育」は、思いやりに包まれ、とても温かいものです。夏には、カンボジアの子どもたちに出会うスタディツアーもあります。 人と人とのふれあいを大切に、実際に「幼稚園児から教育長まで」ふれあうことができるゼミなので、「子ども」を学ぶとか、人間教育を学びたいとか、教師としての指導力をつけたいという人には、いいゼミです。 特に将来、絶対教師になりたいという人には、最もよいゼミだといえるでしょう。(4年)

担当者名	阿野 幸一 (あの こういち)
e-mail アドレス	k-ano@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6309
出講日	月曜日・火曜日・水曜日・木曜日
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、木曜 5 限 (4 年生)
担当科目	【春学期】 英語科教育法Ⅲ、英語教育研究、教育実習 A、大学院科目 【秋学期】 英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅳ、英語音声学、 教職実践演習、大学院科目
研究室を訪問できる時間帯	原則として火・水・木は1日中大学にいます。空き時間は研究室前の予定表で確認してください。研究室訪問ではゼミの3・4年生とも話をしてください。
ゼミのテーマ	英語教師になるための指導力養成。コミュニケーション能力育成のための英語指導法をゼミ生全員で追求します。
ゼミの内容・メッセージ	将来英語教師として教壇に立つことを希望する学生を対象としたゼミです。学校教育における小学校、中学校、高等学校での英語の授業を大きな枠組みの中で捉え、それぞれの学習段階に応じた授業について考えます。日本の英語教育は、2020年に大きな改革を迎えます。これからの日本の英語教育をリードしていく教師を、阿野ゼミから輩出したいと思っています。主役はあくまでもゼミ生。意欲に満ちた皆さんと一緒に、熱く、素敵なゼミを作っていきます。
ゼミの進め方	英語教育に関するテーマをゼミ生が主体的に研究し、発表し、全員でディスカッションをします。並行して、イベント(中高生向けの英語ワークショップでの指導、他大学との共同研究発表、海外の大学のゼミとの合同ゼミなど)に向けての準備をします。学校など英語教育現場への訪問やゼミ合宿などを随時実施します。4年生は卒業論文の作成を、教育実習や教員採用試験に向けた勉強と並行して行います
留意事項 (Requirement など)	小中高の授業見学や学習支援ボランティア、また合同ゼミなどに向けたプロジェクトを行うことが多いので、協力して主体的に取り組みましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	英語教職課程の学生を主な対象とするので、教職科目全般。
定員	学校訪問等の実施をふまえて、10名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	希望者全員と面接を行い、志望理由書等も加味して選抜を行います。特に英語教育に対する熱意と意欲を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後にオリエンテーションを行い、ゼミ開始前の学習の指示等を行います。ゼミのメンバー決定後には、実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	「授業分析から学ぶよい授業の作り方」「生徒の学力差に応じた英語指導法」 「英語の楽しさを伝える授業作り」「小中連携を意識した英語授業」など
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	阿野ゼミは学内の活動だけでなく、高校生へ向けたセミナーの実施や学校見学など、実際の教育現場へ赴き「生きた教育」を学ぶことができます。またそこで多くの人々と出会うことで、自分の可能性を今まで以上に広げることができる、最高のゼミナールです。勉強やサークルで辛くなったとき、支えてくれる仲間たちも周りに大勢います！阿野ゼミに入り、大学生活を今まで以上に豊かにしませんか！？(4年ゼミ長 青木麻由美) 阿野ゼミでは先生の指導の元、これからの英語教育に関して日々研究しています！様々なアクティビティもあるため、その活動を通して中学校や高校の現状を肌身をもって感じることは阿野ゼミの大きな強みです。ゼミ内の雰囲気もよく、多くのゼミ生が切磋琢磨しあえるとても良い環境です。是非ゼミの一員になって、この至高な環境の中で一緒に頑張っていきます！(3年ゼミ長 上野仰)

担当者名	生田 祐子 (いくた ゆうこ)
e-mail アドレス	ikuta@shonan.bunkyo.ac.jp (FB/LINE での問い合わせも可)
研究室	6407 (6号館4階)
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日4時限と5時限(4時限は3211教室で行っています。) ゼミ見学予定日: 9月28日・10月5日・10月12日(予約不要)
担当科目	英語コミュニケーション論 社会言語学 通訳入門 英語科教育法IV 応用演習 基礎ゼミナール 専門ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	火曜日・水曜日・金曜日 12:40-13:15 *他の時間はメールで予約ください。 *研究室ドアに研究室訪問とゼミ見学ができる詳細日時を掲示します。
ゼミのテーマ	「平和を創り、世界と未来へつながるコミュニケーション」
ゼミの内容・メッセージ	このゼミでは、グローバル化する世界と言語の諸相を学びつつ、国際社会を舞台に仕事ができるレベルの 英語コミュニケーション力 を養います。 世界は多言語社会が標準、価値観や文化も多様です。次代を担うみなさんには、世界と関わり、異なる言葉話す人たちと共に生きていく「グローバルな対話力」が必要です。どうすれば世界の人々と相互理解を深めることができるかを議論しつつ、実践的に高度な英語を使う環境を提供します。根幹に流れるテーマは国際理解と平和、 英語はゼミ内言語 = EMI (English as a Medium of Instruction) としています。 <u>こんな学生におすすめ</u> : 国際理解教育の視点から英語教育を担う教師を目指す、グローバル教育や日本語教育に関心がある、海外の企業で働きたい、通訳や翻訳を仕事にしたい、国連やJICAのような国際機関にチャレンジしたい思いがある学生。生田ゼミは、これまで世界とつながる多くの卒業生を送り出しています。大学院進学、長期留学、インターン留学、奨学金による留学を目指している人も応援します!
ゼミの進め方	3年生: 英語脳を鍛え、英語で呼吸する! 1. 英語による模擬国連(JUEMUN)活動 2019年度は神戸外国語大学(春)、筑波大学またはアジア(秋)を予定。 → 英語の資料を読み、語彙を増やし思考力を鍛えます。 2. 国際機関や教育機関でのインターン、日本語教師・通訳ボランティア、英語教育、国際理解教育の研修への参加を奨励します。 3. 英検準1級/TOEIC800点が目標。(英語教職の学生は必須) 4年生: 社会と言語、英語教育、国際理解教育、国際協力(観光も含む)分野の卒論研究を指導します。日本語で執筆、発表は英語が目標です。
留意事項 (Requirement など)	1. 3年次(5セメスター)で「社会言語学」「通訳入門」「平和学」を履修。 2. 9月中旬の合宿(卒論中間発表・3年生課題発表)へ参加。 British Hills (福島県)または山中湖のカナダ系ペンションで開催予定。 学生が自主的に海外で実施することも可能です。(2018年2月パリ研修)
ゼミ履修に望ましい科目	英語コミュニケーション論、英語教職、国際協力、国際理解の関連科目
定員	10名。卒論等の個人指導の時間を考慮し、少人数ゼミとしています。
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	提出した志望動機(日本語)に関して、英語による面接を行います。
ゼミ受入決定者への指示	来春のニューヨーク国連研修は、模擬国連参加の大切な準備になりますので、できる限り参加ください。
代表的な卒業論文のテーマ	“A Case Study of Motivation for Language Learning” 『言語学習における動機づけの一研究』 “Environmental Factors when English becomes a Lingua Franca” 『英語がリンガフランカになるための環境要因』 “Towards Multi-cultural Coexistence with Foreign Residents” 『在留外国人との多文化共生を目指して』 *研究室で過去の卒論をご覧ください。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	英語が大好きで、グローバル志向の強い学生が集まっています。 <u>昼休みに</u> 学生によるゼミ説明も行いますので、知りたいことを遠慮なくおたずねください!(予定は掲示参照) @生田研究室(6407)

担当者名	井上 由佳 (いのうえ ゆか)
e-mail アドレス	yukai@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6308
出講日	月・水・木曜日
ゼミの開講時間	木曜日 4 限・5 限
担当科目	<春>国際学入門、文化政策論、博物館教育論、新入生ゼミナール、専門ゼミナール他 <秋>交流文化論 A, 博物館実習、専門ゼミナール、大学院科目他
研究室を訪問できる時間帯	月・水・木曜日の昼休みなど授業時間以外 (できれば事前にメールをください。)
ゼミのテーマ	楽しみ学べる交流の場を創る！
ゼミの内容・メッセージ	みなさんは「学ぶ」ことをつらい、しんどい、できればやりたくない活動と思いませんか？「学ぶ」ということは本来、楽しくわくわくするものです。人間は新しいことを知り、感動することに喜びを感じる生き物です。喜んで、楽しみながら何かを学べたら、幸せなことではないでしょうか？このゼミはそんな場や場面を、自分たちで考えて作り上げていきます。 具体的には、博物館や美術館といったミュージアム、水族館、動物園、図書館、音楽ホールといった文化施設に注目し、それらの施設の魅力や面白さ、楽しさを自分たちでまずは理解します。そしてその「良さ、面白さ」を多くの人々に向けて発信・アピールしていくためのワークショップなどをメンバーで考えていきます。みなさんのこれまでの知識や経験、感覚が生きていきます。 これまでに茅ヶ崎市美術館や海岸青少年会館等の施設でワークショップ等をゼミ生が主体的に企画・運営し、好評を得てきました。次はあなたの出番！
ゼミの進め方	3 年生はミュージアムに関する文献を輪読し、レジュメの作成・発表・ディスカッションをします。また各自のコミュニケーション・スキルを磨くトレーニングを進めます。また合宿やフィールドワークでは、ミュージアムを仲間と楽しみながら「問題意識を持って物を見る」練習をし、「楽しく学ぶために何が必要か、どうすればいいのか」を考えます。学外でのワークショップの企画と運営をします。4 年生は卒業研究とワークショップの企画に取り組みます。
留意事項 (Requirement など)	学外でも活動するため、豊かな発想力、自ら発言し動く積極性、協調性と責任感を持って行動すること。アルバイト等よりもゼミ活動を優先できること。
ゼミ履修に望ましい科目	交流文化論(A,B)、文化政策論、博物館教育論
定員	10 名(ワークショップの企画運営の際に大人数は難しいため)
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	希望調査票の内容から判断し、必要に応じて面接を実施予定。
ゼミ受入決定者への指示	3 年生になる前の春休みに新 3・4 年生合同ゼミ合宿を開催します。詳細は追ってメールで連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	ミュージアムと観光、アートフェスティバルの運営、文化とツーリズム、学校や地域とミュージアムの連携など
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	★学外で行うワークショップはゼミ生主体で企画するので、コミュニケーションの場づくりに 1 から関わることができます。フィールドワークでは様々なミュージアム等を訪れ、職員のお話を聞いたり、ゼミ生で意見を共有したりするので、審美眼を高め、多様なものに寛容になったりと自分自身の成長につながりました。ミュージアムが好きな人やワークショップに興味がある人はぜひゼミ見学に来てください！★就活で「美術館等について勉強しています」と書くと、直接ミュージアムに関係のない業界でも興味をもってもらうことが多かったです。ワークショップ等の企画運営を通して学ぶことも沢山あります！

担当者名	奥田 孝晴 (おくだ たかはる)
e-mail アドレス	okuda@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6406
出講日	月、火、水、木
ゼミの開講時間	木4、木5
担当科目	[春学期] 国際学入門、近現代史基礎、アジア太平洋経済論、他大学院講座 [秋学期] 開発経済論、国際理解と経済、近現代史基礎、国際学研究C、他大学院講座
研究室を訪問できる時間帯	原則として月～木は出校している。昼休み、専門ゼミ開講時間、研究室前にある予定表空き時間に訪ねてください。
ゼミのテーマ	「国際学の鍋」づくり：「知の運動の守備範囲」はイチロー並みに広く、大迫のようにハンパナイ。
ゼミの内容・メッセージ	今、私が取り組んでいる「国際学」の研究課題は以下のようなものです。 ①平和学の視点から、「核と市民社会」の問題を考えます。原爆、原発などに象徴される「核」の問題、それが地球市民社会にあたる負の影響。また、世界や日本の安全保障にどのように絡んでいるかも考えています。 ②グローバル化・スタディーズの視点から「権力の非対称構造」としての中核-周辺差別問題を考えます。先進諸国と第三世界の関係、トウキョウと地方（たとえばトウホクやオキナワ）との関係はこの構造の「相似形」に過ぎません。この悪しき構造の研究を行います。 ③東アジア諸国・諸民族との共生をいかに図るかという課題。「東アジア共同体への道」を考えます。現在の東アジア諸国の間には「歴史認識の相違」、「領土問題」など様々な懸案が残されており、ますます進む経済的な相互依存とは真逆の敵愾心が強まっています。問題の多くは東アジアの歴史（特に近現代史）への無知や無理解に起因するところが多いのではないのでしょうか。 ④「国際学の旅」をしましょう。「事件は会議室ではなく、現場で起きている」（どこかで聞いたセリフだが...）。国際学を学ぶ現場は世界・日本にたくさんあると思います。研究室と現場との往復運動を通して、「私たちの国際学」を作っていきましょう。
ゼミの進め方	基本、皆との話し合いで決めたいと思いますが、3年次は基本的文献の輪読、発表に基づく意見交換を中心に、4年次は各自が取り組むべき知的課題を見出し卒業論文を執筆します。またロッカショムラなど、適宜、「国際学の現場」を訪ねる旅を行います。
留意事項 (Requirement など)	ゼミは「知の共同体」です。共に「学び、教え・教えられる」よき仲間作りを目指しましょう。一方的なサービスを期待する「お客さん」はご遠慮ください。自身が「国際学鍋の具材」となって学ぼうとする人、それが最大・唯一の必要条件です。（まずは、お話をしましょうか...）
ゼミ履修に望ましい科目	特にはないが、これまでの国際学部での学習をふまえて、上にあげた問題群への理解、知的関心に触れる科目の履修が望ましい。また、ゼミで行う課外研究活動や「国際学の現場」を訪ねる旅に積極的に参加して欲しい。
定員	学外での研修活動を行うことなどをふまえて、10名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	所属学科に関係なく希望者全員との面接にて選抜します。（たぶん、選抜の必要もないと思いますが。）選考にあたっては、上記のような問題群への知的関心・真摯な勉学姿勢を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	事前にオリエンテーションを行う。（期日は別途連絡します。）
代表的な卒業論文テーマ	「東アジア共同体の可能性」「FT（フェアトレード）の功罪研究」 「原子力政策に関する日独比較」「読売巨人帝国主義批判」 「マイクロレジットの日本への適用可能性に関する考察」 「眉の美学と『美意識』の歴史的変遷研究」「日米安保体制を斬る」 「第三世界の貧困とその克服への方策」など

担当者名	海津 ゆりえ (かいづ ゆりえ)
e-mail アドレス	kaizu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6307
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	毎週木曜日 4・5 時限目
担当科目	①国際学入門、新入生ゼミナール、③地域プロジェクト演習Ⅰ、④地域プロジェクト演習Ⅱ、地域のサステナブル・デザイン論、観光資源論、⑤エコツーリズム論、専門ゼミナールⅠ、⑥専門ゼミナールⅡ、⑦専門ゼミナールⅢ、⑧専門ゼミナールⅣ、院サステナブル・ツーリズム特論
研究室を訪問できる時間帯	出講日の昼休み。他はメールにてご相談ください。
ゼミのテーマ	エコツーリズム・サステナブル・ツーリズム： 地域振興と環境保全を担うこれからの観光を考える
ゼミの内容・メッセージ	エコツーリズムは、観光が生む弊害を解決するために 20 世紀後半に生み出された概念です。SDGs が発表され、サステナブル・ツーリズムが必須となった現在、エコツーリズムはその要請に応える使命を担っています。本ゼミナールはこの課題に挑みます。多くの地域事例をテキストに、 <u>理論研究</u> (文献講読とディスカッション)、 <u>事例研究</u> (フィールドワーク)、 <u>演習</u> (宝探しワークショップやプロジェクト群)を通じた学びによって、ゼミを修了した学生がエコツーリズム・デザイナーとなることを目指しています。旅すること、地域づくり、自然保護、地域の人々との交流等に 관심이あり、企画力や提案力、コミュニケーション力を身につけたい学生を歓迎します。
ゼミの進め方	■基本的な流れ 専門ゼミⅠ：理論研究、事例研究 (文献講読、ディスカッション、ゼミ前春合宿、夏合宿を通し、エコツーリズムと宝探しへの理解を深める) 専門ゼミⅡ：地域演習(宝探し、エコツアー企画・実施等) (地域調査、企画・広報、プレゼンテーション) 専門ゼミⅢ&Ⅳ：卒業研究と論文執筆(必須) ■その他の活動 ・地域貢献(茅ヶ崎の各種祭り、イベントサポート) ・プレゼンテーション(全国エコツーリズム学生シンポジウム) ・各種プロジェクト(奄美群島、岩手、福島、神奈川(複数地域)他) ・有志によるフィールドワーク(随時)
留意事項 (Requirement など)	・フィールドワークや合宿のため費用がかかります。(10 万円ぐらい) ・合宿は春休み、夏休み(奄美群島他)、秋学期中に行います。全員参加。 ・有志参加のプロジェクト群が多数あります。 ・3 年個人課題として「一人旅」を課しています。
ゼミ履修に望ましい科目	エコツーリズム論(5 SEM)、観光資源論、地域プロジェクト演習
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	レポートを課し、面接を行います。
ゼミ受入決定者への指示	全員決定後ガイダンス・ゼミを開催。3 年ゼミへの参加、春合宿の実施。
代表的な卒業論文のテーマ	エコツーリズム、震災復興、地域活性化、環境保全、地域ブランディング、国立公園等。研究室に見に来てください。
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	・海津ゼミの魅力は、様々なプロジェクトに参加できることです。夏は先生紹介でインターンに、その他にも各種イベントやボランティア活動の案内も多いです。そのため忙しくはありますが、地域との関わりや、人との関わりを多く持つことができ、自分自身の視野を広く持てるようになると思います。 ・海津ゼミナールに入ったら間違いなく視野が広がります。様々なところを訪れますし、人を、日本を、環境を大好きになります。 地域を元気にしたいなら海津ゼミ！／地域に密着した多種多様なプロジェクトがあり、やってみたいという気持ちがあれば何でも取り組むことができます。／自然が好きな人、日本を知りたい人、積極的にゼミ活動をしたい人におすすめて。合宿はもちろん、インターンや希望参加のプロジェクトなど多くの学ぶ場があります。とても楽しいのでぜひ話を聴きにきてください！／男女の分け隔てなく様々なプロジェクトにチャレンジする事ができます。

担当者名	金井 恵里可 (かない えりか)
e-mail アドレス	kanai@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6418
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4,5 時限
担当科目	日本国憲法(第2 セメスター)、法学(第2 セメスター)、憲法(第3 セメスター)、法と行政 A(第4 セメスター)、法と行政 B(第5 セメスター)、行政法 (経営学部、第6 セメスター)
研究室を訪問できる時間帯	水曜 2 限～昼休み、金曜昼休み～3 限
ゼミのテーマ	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など
ゼミの内容・メッセージ	<p>憲法学・行政法学の基礎知識をもとに、社会問題について調べ、ディスカッションします。</p> <p>憲法は、どこの国でも社会の基本となる法です。一方、行政法は皆さんにとって馴染みが薄いかもかもしれませんが、現代社会では「犬も歩けば行政法に当たる」という言葉があるほど、行政法が私たちの生活に浸透しています。皆さんが社会的関心を抱いている事柄は、きっとどこかで憲法と行政法に繋がっています。</p>
ゼミの進め方	<p>1 学年のゼミを二つのグループに分けます。</p> <p>第1 グループは、「憲法・行政法を使う仕事に就くこと」を目標にする人たちのグループです。公務員や行政書士を目指す学生が対象です。自治体政策や入管・難民事件のケーススタディを中心に進めます。</p> <p>第2 グループは、「特定の社会問題に関心があり、その問題を憲法・行政法の観点から考察すること」を目標にする人たちのグループです。個々人の関心のある領域や関心の度合いに応じて進め方を変えます。</p>
留意事項 (Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> ・二つのグループが並行する関係で、開講時間が前後する場合があります。 ・3 年生の夏休みから秋学期にかけて、インターンシップ・学外研修に参加してください。 ・公務員志望者・法学系資格試験の受験生には、個々人の進度に合わせて、通信講座の受講・参考書の購読等を薦めることがあります。 ・藤沢駅近くの子ども食堂のお手伝いをしています。各自の都合に合わせて参加してください。めやすは月に 2～4 回程度です。
ゼミ履修に望ましい科目	法学系の科目 1 科目以上 (ただし担当者は問わない。)
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	1 月中に顔合わせを行うので、出席して下さい。
代表的な卒業論文のテーマ	「在留外国人の社会的差別」「ヘイトスピーチと表現の自由」「フィリピン残留日本人孤児」「難民認定制度の問題点」／「子どもの貧困」「児童虐待の現状と対策」「待機児童対策の効果と課題」「学校に行かない権利」「学校事故の過失責任」／「受刑者の処遇と社会復帰の権利」「地域コミュニティの防災」「自治体における産・公・民の三者協働」
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	今年の3年生は公務員志望が3名と社会科教員志望と大学院進学希望と資格試験受験で、進路は違いますが同じ時間にゼミをとることにしました。法学の勉強もしながら、ゼミ生の提案で大日本帝国時代の満洲への移民政策と中国残留日本人孤児の問題について学んでいます。夏休みにはゼミ合宿で長野県の満蒙開拓平和記念館を訪問する予定です。社会的なことに興味のある人は自分から提案すれば、ゼミのテーマや活動に加えられます。勉強との両立はちょっと大変だけど、学んで活動して一緒に成長できる2年生、ぜひ参加してください。

担当者名	北野 マグダ (きたの まぐだ)
e-mail アドレス	magda@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6412
出講日	月・火・水・金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	英語表現A、英語表現B、ESP F、翻訳入門、EIC201
研究室を訪問できる時間帯	月・水の昼休み、火3時限 Please read this page before you come, and prepare specific questions.
ゼミのテーマ	Culture in Media
ゼミの内容・メッセージ	In this seminar, we will not study English. Rather, we will use English to learn and exchange our opinions. Presentations, discussions, written work, and final theses will be in English. (The degree to which English is used during seminar meetings will be determined by the class and necessity.) The topic is "Culture in Media," and the class will focus on cultural studies with an international focus through media such as movies, television, journalism, advertising, education, and the Internet. Students will choose one area of interest to study in depth.
ゼミの進め方	Every other week, I will present a new topic followed by discussion. Then students will research more on the topic, and present their findings for further class discussion the next week. Students will write semester reports for the first two semesters. During the final year, students will work on a year-long thesis.
留意事項 (Requirement など)	You must write your final thesis (20 pages) in English. At least a level 3 English class membership (EIC201) is recommended.
ゼミ履修に望ましい科目	Taking an English writing course will aid in writing your reports. I especially recommend my ESP F class. English discussion and debate courses will also help in participating in classroom discussions.
定員	13
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	Interview (in English)
ゼミ受入決定者への指示	Work on your English skills, such as by participating in the Language Garden lunch chats and reading English books and Internet sites for pleasure.
代表的な卒業論文のテーマ	Unnatural Family Dinner Scenes in Japanese Dramas, Product Placement of Porsche Cars in Movies, Crime in America and American Crime Dramas, Fantasy School Life in Japan and America, Comparison of Foreign and Domestic Tourist Guide Books of Tokyo

担当者名	栗原 剛 (くりはら たけし)
e-mail アドレス	tak.kurihara@tsc.u-tokai.ac.jp
研究室	
出講日	未定 (参考: 2018 年度秋学期は火曜日)
ゼミの開講時間	4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	
研究室を訪問できる時間帯	昼休みの時間帯に数回、改めて個別のゼミ紹介を予定しています。
ゼミのテーマ	観光マーケティングの実践
ゼミの内容・メッセージ	<p>マーケティングは「顧客」を創造するために、そのニーズを発見し、価値を提供します。観光分野においてもマーケティングは重要です。本ゼミでは、「観光マーケティングの実践」をテーマに、調査を通じたデータ分析に基づき観光客のニーズを発見し、戦略に役立てることを考えます。まず、観光関連統計やアンケート調査等のデータ分析手法を学びます。その後、それらの手法を実際に各自の研究に活用することで、マーケティングの「実践」に取り組みます。調査対象は国際観光から地域づくり、消費者行動などさまざまです。</p> <p>「どんなことでも疑問を持ち、それを追究する」姿勢を大切にしています。そのため、好奇心旺盛な学生を歓迎します。</p>
ゼミの進め方	<p>【3 年次】 春学期は、マーケティングの基礎理論とその活用について、グループワークを通じて学びます。秋学期は、卒業論文を念頭に、各自の関心を研究テーマにし、マーケティングの手法により研究します。なお、春・秋学期ともに、研究内容をゼミで発表し、議論をします。春休みの課題は、卒業論文の計画書を作成することです。</p> <p>【4 年次】 春学期は、卒論の計画書に基づき、卒論の「リサーチ・クエスチョン」を決定します。夏休み以降は、卒業論文の執筆を指導します。</p> <p>※ゼミ合宿、懇親会の開催はゼミ生に一任します。</p>
留意事項 (Requirement など)	エクセルの利用頻度が高いため、エクセルに関心のある学生にお勧めします。
ゼミ履修に望ましい科目	「観光マーケティング論」、「消費者行動論」を受講することを勧めます。
定員	15 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接を予定。
ゼミ受入決定者への指示	事前オリエンテーション等を実施する場合は、別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「消費者行動としてのパケ買いの考察」「国際会議オプショナルツアーの実態と周辺観光地の波及に関する考察」「SNS 利用頻度とカフェ利用形態との関連分析」「接客を不快に感じる時」等
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	栗原ゼミでは、学びたいことが全力で学べる、良い意味で「自由」なゼミです。ゼミ内での活動はもちろんのこと、ゼミ外の時間でもグループで意見を交わしており、多くのことが学べます。また、グループで協力してひとつの活動に取り組むので、協調性やチームワーク力が鍛えられる他、東海大学との合同ゼミを通して、活動の現状報告などのプレゼンをする機会も多いため、プレゼンテーション力などの社会で必要なスキルも身につけることができます！みなさんと栗原ゼミで会えることを楽しみにしています！

担当者名	黒沢 直樹 (くろさわ なおき)
e-mail アドレス	nakuro96@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6411
出講日	月・水・木曜日
ゼミの開講時間	木曜 4 限
担当科目	[春学期]ホテルサービス論、キャリア形成 B、国際観光と起業、専門ゼミ I、 応用演習、新入生ゼミ [秋学期]ホテル事業論、ホテル・レストラン会計、専門ゼミ II、基礎ゼミ
研究室を訪問できる時間帯	月曜日昼休みまで、水曜日昼休み以降、木曜日昼休みまで (メールで確認の上、 訪問してください)
ゼミのテーマ	ホテルマネジメント及びチェーンホテルオペレーション
ゼミの内容・メッセージ	日本経済再活性化と地方創成に向け、政府は「観光」を基幹産業に育てていく 強い意向を示しています。ホテルを中心とした宿泊産業は、その中核となるも のです。国際的ホテルチェーンを含む大手ホテルの経営や運営に関する調査・ 研究を通してホテルを理解するとともに専門知識を身に付け、将来に備えま しょう。
ゼミの進め方	各ホテルチェーンの対外発表資料や文献などから対象とするホテルチェーン を選択し、研究、調査、発表を行う。実務家教員として、かつての人脈を活か して横浜・東京などのホテル見学や現役ホテルエ (総支配人を含む) へのヒア リングなども実施したいと考えている。ゼミ合宿実施も含め、ゼミ生と共に考 えながら進めて行き、ゼミ生には実社会で役に立つ知識・経験を得てもらいた いと考えている。
留意事項 (Requirement など)	ホテルが好きで、卒業後、ホテル関連の職業に進みたいと希望する人を優先す る。チームワークが基本なので協調性があり、且つ主体的に責任を持って活動 できる人が望ましい。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接を行います。
ゼミ受入決定者への指示	特にありません。

担当者名	小島 克巳 (こじま かつみ)
e-mail アドレス	kkojima@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6317
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	春学期：エアラインビジネス論、ホスピタリティ人材開発ほか 秋学期：交通事業論、エアラインサービス論、テーマパーク事業論ほか
研究室を訪問できる時間帯	原則、出講日の月・水・木の空き時間 ※詳細は後日研究室前に掲示するので確認してください。
ゼミのテーマ	交通事業・交通政策研究 ～観光や地域における交通事業の役割と交通政策のあり方～
ゼミの内容・メッセージ	私たちは毎日の通勤通学で電車やバスを利用し、休日には航空、新幹線、高速道路などを利用して旅行に出かけます。小島ゼミではこのような航空、鉄道、自動車交通（バス・タクシーなど）などの交通機関や、空港・道路といった交通インフラなどを研究対象としています。各交通機関の個別の問題から、交通と観光振興、交通と環境、地方交通の維持といった横断的な問題まで、交通に関わる幅広いテーマを取り上げ議論します。
ゼミの進め方	〔3 年次〕春学期では交通政策に関する文献を輪読し、交通事業や交通政策に関する基本的な知識を習得します。夏休みにはゼミ旅行を実施し、交通事業者への訪問などを通して知識を深めます。秋学期ではそれらの知識を踏まえ、グループワークを中心とした調査研究を行います。こうした勉強を通して、3 年次終了時までには各自卒業論文のテーマを決定することを目標とします。 〔4 年次〕春学期では卒業論文の作成に向けて、研究計画書の作成や中間報告を行います。秋学期では卒業論文の作成指導を行います。
留意事項 (Requirement など)	3 年の夏休みを実施するゼミ旅行では一定の費用 (最低でも 6～7 万円程度) がかかります。また、これ以外にも空港見学等で交通費が発生します。
ゼミ履修に望ましい科目	交通事業論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論の履修を強く勧めます。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	希望調査票の内容にもとづいて面接を実施します。ゼミで学びたい内容やゼミへの貢献の可能性を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「JR 北海道が生き残るためには」 「航空会社の広告 CM とその有効性」 「進化し続けるサービスエリアの将来性」 「成田闘争の歴史と経緯 ～成田空港の未来を考える～」 「東京オリンピックで懸念される交通問題とその対策」
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	・いつも何気なく利用している鉄道や航空機などの交通機関を少し違った視点から見ると、新しい発見がいっぱいです。そんな誰にとっても身近な存在である「交通」について学ぶゼミです！ ・小島ゼミでは交通機関について座学で学ぶだけではなく、実際に空港などにも訪れてみて体験ができるので、より多くの知識を増やすことができます。小島ゼミでお会いすることをお待ちしています！

担当者名	齊藤 功高 (さいとう よしたか)
e-mail アドレス	saito@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6216
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 限 (3 年ゼミ) 金曜日 5 限 (4 年ゼミ)
担当科目	[春学期] 新入生ゼミナール、国際理解と法、法学入門、国際機構論、専門ゼミ I (3 年)、専門ゼミ III (4 年) [秋学期] 国際環境法、国際人権法、国際理解と環境、基礎演習、専門ゼミ II (3 年)、専門ゼミ IV (4 年)
研究室を訪問できる時間帯	火曜日昼休み・4 限 5 限、水曜日 2 限・昼休み、金曜日昼休み・4 限・5 限
ゼミのテーマ	国際法の研究—国際社会を国際法の視点から読み解く—
ゼミの内容・メッセージ	国際法は国際社会の法として国際法主体 (国家、国際組織、NGO、個人、多国籍企業) が守るべき法規範である。国際法主体はおおよそ国際法を遵守しているが、時には国際法主体同士の合意形成ができないため、軋轢が生じることがある。また、現実の国際社会は、急速に変化しているので、よく言えば、発展しているので、現状の国際法では解決できない問題が発生する。そこで、国際法の視点から現状の国際社会の事象を分析し、そこに潜む問題点をえぐり出し、その問題解決にはどのような方法があるのか、また、新しい国際社会の動きに対応する国際法はどうあるべきか等を研究する。具体的な各自のテーマはゼミ生と話し合いの上、決定する。
ゼミの進め方	① 3 年次春学期は国際法全般に関するプレゼンを行い、その内容についてディベートを行う。春学期の学習のまとめとして最後にレポートを作成する。 ② 3 年次秋学期は個別のテーマに沿ったプレゼンを行い、その内容についてディベートを行う。秋学期の学習のまとめとして最後にレポートを作成する。 ③ 4 年次春学期は、卒論作成に向けて、テーマ及び内容を確定する。概略をレポートとしてまとめる。 ④ 4 年次秋学期は、夏休みを通して書き上げてきた卒論草稿を精緻な卒論に仕上げる。
留意事項 (Requirement など)	①ゼミ合宿を行う(希望者)、②海外研修を行う(希望者)、③4年卒業旅行を行う(希望者)、④その他、学会出席(希望者)
ゼミ履修に望ましい科目	法学入門、国際機構論、国際理解と法、国際人権法
定員	専門性を考慮して 10 名を募集上限とする。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	原則として面接を行う。その際の順位は以下の通り。 ①第 1 順位として国際協力領域所属の学生。 ②第 2 順位として理解学科の他の領域の学生。 ③第 3 順位として観光学科の学生。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受け入れが決定後、1 2 月あるいは 1 月に 3 年生・4 年生と顔合わせ会を行う。その際、4 月までの指示を行う。
代表的な卒業論文のテーマ	人権(女性、子ども、難民など)に関するテーマ
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	[3 年生から] 国際法はすべてのことに関わっているので非常に役立ちます。話しやすい雰囲気の中、活発に議論しています。先生もおもしろいですよ。[4 年生から] 飲み会では、先生や 3 年生、時には先輩と交流する機会があり、楽しいですよ。合宿も面白いですよ。きちんと勉強しますが、みんなと一緒に行動することで、一層親密感が生まれます。先生はよくダジャレを言うので、雰囲気が和みます。とにかく、メリハリのあるゼミです。

担当者名	椎野 信雄 (しいの のぶお)
e-mail アドレス	shiino@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6314
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4限目 (5限目)
担当科目	[春学期] 国際学入門(1)、交流文化論 B(3)、現代思想(5)、ジェンダーと教育特論 (大学院) [秋学期]国際学研究 B(4)、ジェンダーと国際社会(6)、市民社会・ガバナンス特論 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	メールでアポイントメント (訪問予約) をとってください。 研究室@6314 のドアのボードを見てください。オフィスアワー(木・昼休み)
ゼミのテーマ	<社会>とは何だろう。<社会>とはどのように作られてきたのだろうか。<社会>は、これからどのように作ることができるのだろうか。グローバル化する社会・国際社会・社会に貢献する、この<社会>とは、私たち一人ひとりの日々の日常生活に、隅々にまで影響を与えている実在なのです。<社会>とは何だろう、を自分なりに理解して、これから、自分の日々の日常生活を送って行くための知恵を身につけて、「社会人」/「市民」として社会に生きていくことがゼミの学びのテーマです。
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミは、国際学入門 (1年) や国際学研究 (2年) の学びを踏まえて、グローバル社会・国際社会・市民社会について、<社会>とは何だろう、を社会学の視点からアプローチします。社会学の視点とは、<近代社会>を対象として、<近代社会>の中で生起しているあらゆる諸現象 (国家・経済・政治・企業・労働・家族・地域・市民・文化・観光・ミュージアム・言語・メディア・教育・国際・歴史・紛争や世界と日本・ジェンダー・セクシュアリティ・社会問題) について、自分の日常生活がどのように影響を受けているのかを理解する視点のことで、自分が興味を持っている現象について、「正解」ではなく、自分なりの理解を深め、日常生活で実践することがゼミの目標です。
ゼミの進め方	①ゼミの進め方は、私の他の授業のやり方と基本的に同じです。社会学の視点から<社会>で起こっている諸現象とは何か、それがどのように自分の日常生活に影響を与えているのか、を理解することを基本目標とします。それを通して、あなたにとっての社会の過去・現在・未来について考える力を養い、日常生活において常に考える力を使えるようになることが到達目標です。他のゼミ生のコメントについて、社会学の視点について質疑応答ができ、ディスカッションを通して、他者の問題意識を共有する力を深め、自分の社会観をアンラーン (考え直すこと) し、<社会>の諸現象について問いを沢山持って実践する(地球)市民になっていきます。<社会>の中のあなたの今が変わるのです。 ②現代社会のあり方を理解するための課題 (研究テーマ) を自己決定し、4年次に卒業論文にまとめます。「大学」的な言語コミュニケーション能力 (読書聞話・思考・発表・プレゼン・ディスカッション) を習得し卒論を仕上げます。 ③映像/アートの学び・ソーシャルツアー・ダークツーリズムも適宜行ないます。
留意事項 (Requirement など)	「映画上映」の開催実施に積極的に参加してもらうことがあります。 椎野ゼミナール・サイト(http://www.bunkyo-shiino.jp/) をご覧下さい。
ゼミ履修に望ましい科目	履修科目において「覚えること」ではなく、「知る」「気づく」「考える」「アンラーン」することの大切さ・面白さを理解したことがある人が望ましい。
定員	10人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接にて選抜します。ゼミの内容の共感度を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	決定時から3月までの課題についてオリエンテーション (学習指導) をします。
代表的な卒業論文のテーマ	戦後日本社会の「あるべき男性像/女性像」とDV家庭の出現の係り
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	本気で学びたい人を大歓迎するゼミです！自分の考えを深め、様々な知識を知るところでもあります。自分の意見と知識をみんなと交換し、メンバーの絆を深めます。社会のあらゆる出来事の裏側や背景をはっと気づかせてくれるようなゼミだとおもいます！自分にとっての「当たり前」を疑い、皆で話合います。

担当者名	塩沢 泰子 (しおざわ やすこ)
e-mail アドレス	yasuko@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6315
出講日	月、火、水、木
ゼミの開講時間	3年は木曜4限。4年は木曜5限
担当科目	異文化理解演習(2)、英語とメディア(6)、英語オーラル・コミュニケーション論(4),EIC301 など
研究室を訪問できる時間帯	月、火、水の昼休み。木曜の5限後
ゼミのテーマ	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力 (特に英語) 養成
ゼミの内容・メッセージ	英語による様々なドラマ手法 (即興、スピーチ、朗読、創作劇など) に取り組み、表現力、洞察力、共感力、創造力を高めます。小学生対象の英語活動にも関わり、リーダーシップと人間関係構築力を磨きます。最も重要な活動は大学祭と12月のフェスティバル (全国各地の大学が参加) での創作劇発表。ITを駆使したコメディが塩沢ゼミの伝統。海外を含めた他大学の学生との合同ドラマ合宿やゼミも実施。卒業研究は論文だけでなく、翻訳、スピーチ、英語劇など多岐にわたります。オープン・キャンパスにも積極参加。海外の大学 (台湾・タイ) との交流も実施 (有志) し、異文化理解に努めます。
ゼミの進め方	3年春学期はドラマの基礎 (理論と実践) と、学童保育での英語教育の計画と実践に重点を置きます。秋学期は大学祭ならびにフェスティバルの準備・練習が中心。4年春学期はスピーチや朗読の理論と実践。秋学期は即興の交渉劇の実践に加え、卒業研究を進めます。3年次から進路に関するガイダンスやゼミ生同士の情報交換、自己啓発の文献紹介も行います。学期に1回程度、学外の専門家を招き、ワークショップを実施。
留意事項 (Requirement など)	聳塔祭ならびに12月の大会で、3年ゼミ生全員で英語パフォーマンスを発表するのが最重要課題。そのための練習や合宿などもゼミ生全体で話し合った上で合意を取り、参加していただきます。国内外の大学生との英語による交流や合同合宿も行います。旅費は各自計画的に準備して下さい。オープン・キャンパスにもゼミの一環として参加します。授業外での練習や準備があります。
ゼミ履修に望ましい科目	英語とメディア、英語オーラル・コミュニケーション論
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類 (志望動機) と面接によりますが、場合によっては抽選もあり得ます。
ゼミ受入決定者への指示	12月のオーラル・コミュニケーション・フェスティバルに必ず聴衆として参加すること。春休み中の課題もありますので、いつでも連絡が取れるように。
代表的な卒業論文のテーマ	「生きる力を育てる教育」、「複合劇を通して伝える異文化コミュニケーション」、「よりよい人間関係構築への距離と空間とコミュニケーション」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	塩沢ゼミは、英語を使って様々な活動をしている active なゼミナールです。毎週、大学近くの学童保育で英語の楽しさを伝えています。最大の行事はオーラル・コミュニケーション・フェスティバルで、他の大学に混じり劇などのパフォーマンスを披露します。ゼミの時間外で活動することもあるため、忙しく、大変な時もあるかもしれませんが、ゼミ生が一丸となって困難を乗り越え、無事成功した時の達成感はひとしおです。 とにかく英語で何かやりたい! というやる気のある人におすすめです。 ※聳塔祭で劇等のパフォーマンスを上演しますので、興味のある方は是非ご覧にいらしてください。

担当者名	菅原 周一 (すがわら しゅういち)
e-mail アドレス	suga8216@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6415
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	新入生ゼミナール (1)、基礎ゼミ (2)、応用演習 (3)、日本経済論 (3)、金融論 (4)、国際観光と会計 (4)、国際金融論 (5)
研究室を訪問できる時間帯	原則として、月、水、木の昼休み、もしくは、月、木の 3 限。(訪問の際はメールで予約してください。)
ゼミのテーマ	日本経済の成長を将来牽引することが期待できる企業 (エアライン、ホテル・旅館業、ブライダル業、旅行業等の観光業を含む) に関する調査・研究
ゼミの内容・メッセージ	菅原ゼミでは、将来、日本経済を元気にしてくれる観光業を中心とした企業を探し、応援するための調査・研究を行っています。この調査・研究を通して、社会人になるための基礎力、専門知識を身に付けることができます。また、ゼミ活動を通して、有意義で充実した学生生活を送ることができます。
ゼミの進め方	3 年生の春・秋学期で企業評価に関する基礎的な知識を習得し、さらに外部機関が提供するイベント (本年度は日経ストックリーグ、神奈川産学チャレンジプログラム等) にグループ参加をしながら、実践力を身に付けます。 4 年生の春学期からは卒業研究の検討を進め、ゼミ内でディスカッションをしながら内容の充実を図り、秋学期に卒業論文執筆を行います。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動に積極的であること、やる気があることが重要です。全員参加の海外ゼミ合宿も原則として全員参加して頂きます。
ゼミ履修に望ましい科目	3 年生までに「国際観光と会計」の授業を受講することが望ましい。
定員	15 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接、書類審査等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	個別に面接を行うとともに、オリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	各自で興味を持った企業・業界に関する調査・実証分析、将来性に関する研究が中心で、「ハワイにおける観光業の可能性と限界」、「LCC による日本の経済効果」、「J リーグができる地域貢献」、「御三家と海外のホテルの運営形態の比較について」、「若者の長生きリスクとリスクヘッジのための提言」など。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	菅原ゼミのメンバーはチームワーク力抜群！先生はとっても親切！やる時はやる！切り替えを大事にしています。 菅原ゼミで学ぶ内容は将来の自分に必要なことばかりです。幅広い分野 (観光業のみならず銀行、保険会社、自動車など) を勉強していきます。勉強だけでなく、飲み会、BBQ や夏合宿、クリスマスパーティなど楽しいイベントもたくさんあります！理解学科と観光学科のメンバーは優しい先生の下で隔たりなく楽しく活動しています！ 将来の自分の姿が決まってない方でも大歓迎です。興味がある方は遊びに来てください！みなさんをゼミ室でお待ちしています！

担当者名	杉山 富士雄 (すぎやま ふじお)
e-mail アドレス	sugiyama@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6212
出講日	火、水、金 (秋学期)
ゼミの開講時間	金 4
担当科目	経済学、(産業組織論)、(観光企業の競争戦略)、(観光ビジネスの経済学)
研究室を訪問できる時間帯	火曜日と金曜日の昼休み
ゼミのテーマ	食う・寝る・遊ぶの経済学
ゼミの内容・メッセージ	江戸時代から現代までの日本の観光産業、とりわけ『食う(飲食)・寝る(宿泊)・遊ぶ(旅行など)』の諸産業・企業を経済学の視点から学ぶ。和食が今日の形になったのは江戸時代の『寿司、天ぷら、蕎麦』がファーストフードとして提供されたことに始まり、さらにお江戸・日本橋を起点とする五街道沿いには旅籠(日本旅館)が宿場町ごとに整備され、おもてなしの精神が磨かれていきました。また飛鳥山公園や遊園地の浅草花屋敷も作られ、豊かになった江戸の庶民は余暇を楽しめるようになりました。 現在では星のリゾートによる日本旅館の再生、HIS による地方テーマパーク再生、紀尾井町ガーデンプレイスという総合宿泊・飲食施設のオープンなど 2020 年オリンピック前に、外国人観光客も激増して日本の観光産業が活性化しています。 そのような状況を踏まえ、私も 2016 年から今年までと 3 年連続して、食う(飲食)だけを趣味的にゼミのテーマとしましたが、観光学科学生のニーズに鑑みて、オリンピック並みに 4 年ぶりに『食う・寝る・遊ぶ』全てをテーマにすることにしました。
ゼミの進め方	学生の自主的な発表を重視します。発表するテーマについては、出来るだけ観光産業などの現場まで調査に行き、文献などで収集したデータを現場の事実と合わせながら、問題の改善策やイノベーション戦略などを学生が自主的に考えられるように訓練します。 2018 年は 3 月～9 月までに、ゼミ学生の卒論テーマに合わせて、山梨県の甲府ほうとう・石和温泉桔梗屋工場、横須賀カレー・戦艦三笠・ペリー記念公園、宇都宮餃子・大谷石・新栃木スターバックス、(今月末に足利・佐野、みなどみらい)などに現地調査に行きました。
留意事項 (Requirement など)	2019 年もだいたい一学期に国内のみ 2 回程度の調査旅行(土曜日から日曜日の日帰旅行で早朝から夜までの調査)を予定しています。
ゼミ履修に望ましい科目	経済学、経営学、法学など社会科学系の科目
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	なし。
代表的な卒業論文のテーマ	代表的な卒論のテーマは、 「ディズニーとその他のテーマパークの経営比較」(2016 年 3 月卒業生) 「にら山反射炉とペリー」「ペリー来航とみなどみらいの形成」「富岡製糸場」 「川越の町づくり」「湯河原の温泉街」等 (2017 年卒業生) 「横浜ベイスターズの躍進の経営的な秘密」「中国人爆買いの終焉」「日本の真珠養殖の歴史」等(2018 年卒業生)

担当者名	高井 典子 (たかい のりこ)
e-mail アドレス	takai@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6310
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金 4 (3 年生)、金 5 (4 年生) …時々2 限続きで合同ゼミを開催
担当科目	国際観光論(2 セメ)、トラベル・ビジネス論(4 セメ)、旅行法規(5 セメ)、専門インターンシップ(6 セメ) 等。大学院では 2 科目とオムニバス講義を担当。
研究室を訪問できる時間帯	火曜・金曜のお昼休み、および研究室ドアに掲示する日時。
ゼミのテーマ	トラベル・ビジネス 観光行動 インバウンド観光
ゼミの内容・メッセージ	<p>観光行動論および経営学の理論をベースに、トラベル・ビジネスを研究するゼミです。2019 年度は次の 3 つのテーマについて研究していきます、①トラベル・ビジネスの構造変化 ②ソーシャルメディアが変える観光行動 ③インバウンド観光(訪日外国人旅行)の現場における異文化間コミュニケーションの課題。</p> <p>これらのテーマについて、文献研究とフィールドワーク、プロジェクトを組み合わせたアクション型の学びを進めています。ビジネスとしての観光を学びつつ、それらを取り巻くより大きな社会状況を知り、世界を知り、自分を磨き、誰かの役に立つ人になること。それが高井ゼミの目標です。</p>
ゼミの進め方	3 年生は文献および時事トピックの輪読を通して知識と理論を学びつつ、プロジェクトを通して知識を応用する力を身に付けます。4 年生は各自の卒業研究テーマに沿った文献研究、基礎調査を実施のうえ、研究計画を立案し、11 月末までに初稿完成することを目標に進めます。
留意事項 (Requirement など)	英語を用いた調査等を実施しますので、一定の英語力および(それ以上に)英語コミュニケーション能力の向上に積極的な学生を求めます。
ゼミ履修に望ましい科目	国際観光論、トラベル・ビジネス論、旅行法規
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	①面接 ②英語能力レベル(面接時に TOEIC スコアを提出していただきます) ③3 セメまでの履修内容と成績・・・以上を総合して決めます。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受け入れ決定後はゼミに参加していただきます。
代表的な卒業論文のテーマ	観光行動分析、インバウンド観光の現場での問題、若者の旅、トラベル・ビジネスにおけるイノベーション、観光を通じた異文化理解など。
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	・真剣に観光学を学びたい学生が集まったゼミです。

担当者名	千葉 克裕 (ちば かつひろ)
e-mail アドレス	ch1ba@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6304
出講日	火 水 木
ゼミの開講時間	木4 (3年) 木5 (4年)
担当科目	CALL102・104, EIC C, 英語科教育法Ⅲ・Ⅳ, 英語学概論
研究室を訪問できる時間帯	昼休み、オフィスアワー(火4限・水2限)にどうぞ。 ゼミ見学は事前に申し込んでください。
ゼミのテーマ	「理論に基づいた効果的な英語の学び方と教え方」
ゼミの内容・メッセージ	まずは自分の英語をしっかりと磨き、その過程を通して「 英語を身につける仕組み 」について考え、その理論を生かしてさらに自分の英語力を高めたり、教えるたりするための知識と技術を身につけます。 読書が苦手な人のために文献を読むための読書法や思考の整理法 (マインドマップ等) など「 学び方を学ぶ 」ことにも重点を置きます。研究テーマや将来の仕事にかかわらず、自分の興味関心に従って学問的問を立て、調べ、まとめ、発表する力を養うことが最大の目的です。 高い英語力と科学的根拠に基づき論理的に議論する能力を身につけ、将来英語を使って仕事をしたい人や英語を教えたい人の参加をお待ちしています。
ゼミの進め方	<u>3年春学期：基礎的研究力の育成</u> ・思考の整理法、ノートの取り方(マインドマップ) ・本の読み方 (読書法) とまとめ方・発表の仕方 ・新書をたくさん読みながら読書力と言語学の知識を蓄える ・語彙力と文法力の強化 <u>3年秋学期：研究のためスキルアップ</u> ・第2言語習得の入門書を輪読しながら研究の方向性を模索 ・文献研究の方法 (文献検索・研究カード整理法) ・先行研究レビューとゼミ発表・研究テーマの決定 ・発音矯正 <u>4年：研究論文の作成</u> ・研究デザインの決定とデータ収集・分析と論文作成
留意事項 (Requirement など)	・事前の研究室訪問で十分な説明を受けられるようにしてください。 ・ゼミ合宿有り ・Mindmap@講座(希望者のみ)は要教材費
ゼミ履修に望ましい科目	英語学概論、英語音声学、英語表現、心理学など
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	英検や TOEIC を受験し、スコアを提出。 春休みは何でも良いので読書を楽しんでください。
代表的な卒業論文のテーマ	「多読学習の効果」「EFL 多読学習者の読解の流暢さについての考察」「動機づけの原因帰属理論」「等価的語義理解を避けるための語彙学習」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	私たちのゼミは、ゼミ生同士とても仲が良く、毎日楽しく活動しています。ゼミの特徴として、やるときはやる！遊ぶときは遊ぶ！といったメリハリをつけているところです。千葉先生は怖そうに見えて、英語学習の相談などには親身にアドバイスして下さるとも優しい先生です。ゼミでは言語習得について学ぶだけでなく、多読学習などを積極的に行い切磋琢磨しあっています。言語や英語に興味がある方、または教員を目指している方、ぜひ、家族のような私たちのゼミで一生涯に学びましょう。

担当者名	那須 一貴 (なす かずたか)
e-mail アドレス	knasu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6409
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金曜日 4限 (3年生)、5限 (4年生)
担当科目	国際観光とビジネス、プロジェクトマネジメント、観光ビジネスプロジェクト演習、経営学入門、長期インターンシップ事前研修、キャリア形成基礎
研究室を訪問できる時間帯	研究室の扉に在室時間が書いてあります。どうぞ気軽に訪問してください。
ゼミのテーマ	経営管理、マーケティング、ブランディング
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは、「即戦力ビジネス・パーソン」を目指します。即戦力ビジネス・パーソンとは、ビジネスに関する知識はもとより、自ら課題を見出し解決することができる能力と、リーダーシップ、協調性、高度なプレゼンテーション能力を身に付けた人材です。これらの能力を身につけるため、当ゼミでは2018年度は、実践的な活動の場として以下のプロジェクトを実施しています。 ① 課題解決型プロジェクト(神奈川産学チャレンジ) への参加 ② 長野県山ノ内町湯田中駅前の「地域産品ショップ」の企画・運営 ③ 長野県山ノ内町及び山ノ内町商工会からの委託調査 (街歩きマップ作り、地域産品のブランディングなど) ④ 「リーダーシップ研修」(年2回、土曜日開催)
ゼミの進め方	① 3年次は文献購読に基づく学生による討議と企業分析発表を行います。サブゼミとして上記プロジェクトの準備活動を行い、実践力を高めます。3年後期には財務会計の基礎を学び、数字でビジネスを考える力を身につけます。 ② 4年次はビジネスケースを用いたケーススタディを中心に行います。様々な企業の事例をゼミ生とともに議論しながら分析していきます。この活動を通じて、学んだ知識を実践でどう使うかを身につけます。同時に卒業論文執筆をおこないます。
留意事項 (Requirement など)	プロジェクト活動が多いため、サブゼミ(課外活動)への参加が求められます。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	14名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	全員と面談をおこないます。
ゼミ受入決定者への指示	オリエンテーションを行います(期日は別途連絡します)
代表的な卒業論文のテーマ	経営戦略、マーケティング、ブランディングに関する研究など。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	那須ゼミナールでの活動は企業とプロジェクトを進める機会があったり、ゼミ生同士で活発に議論を行ったりと自身の社会人としての成長に結びつくものばかりです。忙しいゼミですが学ぶことも多く、ここで培った知識や経験は一生ものです。本気になって何かに取り組み、忙しくも充実した日々を那須ゼミナールで過ごしてみませんか？(3年生) 「成長したい、ゼミを充実させたい」と思っている人にオススメしたいです。プロジェクトが多くあるため忙しいですが、その分自分自身が得るものは大きいです。先生や同期との仲も深まります。2年間を通して「充実していた！」と誇れる思い出をつくりませんか？(4年生)

担当者名	林 薫 (はやし かおる)
e-mail アドレス	hayashi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6306
出講日	(月)、火、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4限 5限
担当科目 (セメスター)	国際理解論(2) 地域研究Dアフリカ(3) NPOとボランティアの理論(3) 開発と国際協力(4) 資源と国際協力(4) 国際協力実地演習
研究室を訪問できる時間帯	月曜日(終日:要連絡)、火曜日(1限、昼休み、4限、5限)、水曜日(昼休み)、木曜日(1限、3限) ゼミ見学は木曜日4限、5限。ゼミ選択期間中はこれ以外にも研究室訪問が可能です。6306研究室前に日程表を掲示します。
ゼミのテーマ	「持続可能な世界の実現」がテーマです。
ゼミの内容・メッセージ	2015年に国連は2030年までの「持続可能な開発目標」を採択しました。これは開発途上国と先進国がともに目指さなければならない目標ですが、その成否は私たちの日常の生活のありかたに直接結びついています。ゼミ生の学びたいテーマの設定は自由です。貧困、格差、福祉、子ども、経済、貿易、国際関係、移民と難民、気候変動、環境汚染、防災、災害復興、地域振興、その他いずれの分野も最終的な課題は「持続可能性 sustainability」に行きつきます。理想論だけではない具体的な解決策の提示を目指します。みなさんの学びたい分野やテーマを通じて考えてみませんか。また、プロジェクトの計画と評価、統計、参加型開発など、社会に出てから必要な汎用スキルを身につけ、実践的なチェンジメーカーになることを目指します。
ゼミの進め方	3年生の春セメスターは持続可能性の基本的な考え方を途上国の現実を通じて学びます。農村の開発の具体例を使って、ロールプレイング方式で生活の向上について実習を行います。秋セメスターでは、ゼミ生の関心の領域について、研究発表とディスカッションを組み合わせて、知識を深めます。4年生の春セメスターでは、討論を続けながら、各ゼミ生のテーマを決定します。秋セメスターでは卒業論文を書き上げます。毎年夏に、任意参加の「インド・スタディー・ツアー」を実施し、途上国の現実を学びます。学外のイベント参加なども積極的に行っています。聳塔祭へも参加します。また被災地の支援活動も行っています。
留意事項	インドスタディーツアーへの参加は義務ではありません。ただ、できれば参加していただけるとありがたいです。
ゼミ履修に望ましい科目	2年秋セメの「開発と国際協力」「資源と国際協力」を可能な限り履修してください。
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接で選抜します。議論やゼミ活動に積極的に発言できるかどうかなどが選考基準です。
ゼミ受入決定者への指示	決定したら、3,4年のゼミになるべく顔を出すようにしてください。ゼミの機関は短いので、2年生のうちから一緒に学びたいと思います。
代表的な卒業論文のテーマ	「インドの最下層カーストと社会統合」 「持続可能な資本主義—これからの世界」 「災害に対する国民意識と草の根防災の可能性—フィジーの事例」 「日本は難民問題にどう向き合うべきか」 「エシカルファッション—持続可能な衣服」 「子どもの貧困の対策と現状—行政とNPOの結びつきの重要性」 「開発教育からフェアトレードへの展開」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	ここは最高の学びの場です！ 国際協力や国内外の問題について触れることができ、自分たちが取り組みたいことに林先生は何でも全力でサポートしてくださいます！ 先輩方も偉大な方が多く、常に新しい情報を得ることができます。メンバーは何かかざれていても白いけど、みんな努力家です。ぜひ、一緒に楽しみながら、全力で自分のやりたいことに取り組みしましょう。 Be a part of the solution! (3年 木村みなみ)

担当者名	黛 陽子 (まゆずみ ようこ)
e-mail アドレス	mayuzumi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6417
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 *4 年時は木曜 2 限または水曜日 2 限 (要相談)
担当科目	新入生ゼミ、基礎ゼミ、応用演習、生態系と人間、環境と経営、観光と国際協力、国際観光とデザイン、インタープリテーション論(理論・応用)、情報デザイン特論 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	月、水、木の昼休みと授業の無い時間帯 (メールにてアポイント必要) *ゼミ説明会を実施します。説明会日時は 6417 のドアに掲示予定
ゼミのテーマ	ヘリテージ・インタープリテーション技術と取組みの精神の学び 「知る・調べる→伝える→つなぐ→解決策」 一見しただけでは見えにくい大切なものを理解し伝え、残す
ゼミの内容・メッセージ	黛ゼミのインタープリテーションは、観光地のヘリテージ (自然・文化遺産・生活慣習) に対し地に足が着いた立場で学生自らが深く理解し、人のガイドやメディアで伝え、さらにそれが持続可能な形でまもっていかれるように援助する活動です。これは精神的な文化度の進んだ先進国で発達したものです。ヘリテージに付加価値を与えるだけでなく、観光地に人を惹き付けるマーケティングの手段としても利用できます。インタープリテーションのターゲットは、ある程度の知識や社会的地位、生活レベルの高い人々であるのが現状です。それは、ヘリテージを深く知り、守ろうと思う人々は、毎日の生活にある程度の余裕があることが必要とされるからです。この人々をお客様にするためには、フィールドを持って専門的にヘリテージを知り尽くす姿勢がもっとも大切であり、これをゼミの学びの精神としています。フィールドは、バリ島での活動が主です。現地の自然環境、文化、生活慣習、貧困などの多くの課題を直接見て知り、本当のバリ島の理解者を増やす流れを作るために、Community Based Tourism のビジネス化に取組みます。日本ではあまり浸透していませんが、地球と観光発展にとって重要なインタープリテーションと一緒に育てていきましょう！
ゼミの進め方	[インタープリテーション理論]=授業で受講 [インタープリテーション実践]=ゼミ活動 * 3 年時：6 月 7 月バリ島合宿準備 8 月バリ島合宿 12 泊 *4 年時：卒論文取組み：社会調査を用いた卒業論文を書きます。
留意事項 (Requirement など)	コミュニケーションを率先して行なうことが出来る、また、体力のある学生さんをお待ちしています。本ゼミでは全員がバリ島ゼミ合宿に参加することを希望します(15 万円程度)。他に軽井沢合宿 (2 万円)。
ゼミ履修に望ましい科目	ゼミ活動では、実践を主とする為に、インタープリテーション論(理論・応用)はゼミ生全員 3 年時に必ず受講。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を実施する。
ゼミ受入決定者への指示	1 月に顔合わせ会の実施。3 年生になる前の春休みに課題。
代表的な卒業論文のテーマ	グリーンツーリズムビジネス化研究・地場産業の商品開発と販売手法研究・観光業と農業の就労意識調査・メディアツールの制作研究
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	黛ゼミナールは、1 年を通して様々な課外活動が行われるとても活発なゼミナールです。夏に行われるバリ合宿は、実際に現地の方との交流をすることで、観光だけでは分からない本当のバリを学ぶことができます。合宿によって自己課題を見つけることができ、その後のゼミナール活動に対してとても意欲を持って取り組むことができます。バリ合宿を終えた後、ゼミナールメンバーの絆はとても硬いものになりました。黛ゼミナールは、ひとつひとつの学びが深く、とても充実したゼミ活動を行なっています。自然や人との交流が好きな学生におすすめしたいゼミナールです！

担当者名	宮原 辰夫 (みやはら たつお)
e-mail アドレス	miyahara@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6415
出講日	水、金
ゼミの開講時間	金曜日 3 限 (3 年生)、4 限 (4 年生)
担当科目	政治学入門 地域研究 (南アジア)
研究室を訪問できる時間帯	出校日の昼休み
ゼミのテーマ	テーマは特別に定めていません。ゼミ生が関心や興味のあるものをテーマにしています。今回、4 年生のテーマは「廃校再利用のプランニングの提案」です。
ゼミの内容・メッセージ	宮原ゼミでは、ゼミ生が自ら考え、自ら行動することを大切にしています。担当教員は様々な場面で、アドバイスやできる限りのサポートはします。しかし基本的には、テーマは自分たちで決めるのが宮原ゼミの方針です。すでにやりたいテーマが決まっている人は大歓迎です。まだ決まっていない人も大歓迎です。一緒にテーマを考えてみましょう。ベンジャミン・フランクリンは「天は自を助くる者を助く」と言っています。あまり他人の助力を当てにせず、自ら努力してテーマを決め、それをまとめ上げることこそゼミの醍醐味ではないかと思います。
ゼミの進め方	3 年生の春学期はテーマを考え、秋学期には決定したテーマについて議論し、そのテーマについての一般的な調査も行います。4 年生はそのテーマに関する対象を絞り込み調査を行い、そこで得たデータを分析します。さらに理論的な裏付けを行い、卒業論文として完成させます。
留意事項 (Requirement など)	テーマによっては地域への聞き取り調査を行う場合もあります。ただし、海外での調査・研修は行いません。
ゼミ履修に望ましい科目	担当する講義科目を履修していることが望ましいが、履修していなくても問題はありません。
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	個別面接を行いますので、宮原ゼミになぜ入りたいのか、ゼミで何をやりたいのかなどを、事前に考えて置いてください。
代表的な卒業論文のテーマ	宮原ゼミでは、ゼミ生が興味を持ったテーマを追求してきました。今回の4 年生は全員で「廃校再利用のプランニングの提案」というテーマで、廃校を活用した様々な施設を訪問しヒアリングを行っています。その前の年は、ゼミ生全員で「日本版 DMO の特色と大隅半島 DMO の取組み」というテーマでした。
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	宮原ゼミは自分たちで考え、自分たちで行動することが求められます。もちろん、先生からテーマや調査方法についてアドバイスをして頂けます。自分たちで決めたテーマについて主体的に行動を起こし、まとめていく過程はとても充実感があり、やりがいを感じています。興味のある方は、是非宮原研究室を訪問してください。

担当者名	本浜 秀彦 (もとはま ひでひこ)
e-mail アドレス	motohama@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6311
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木4限、5時限
担当科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」、「日本ポップカルチャー論」、「日本の伝統文化」、「比較文学」など
研究室を訪問できる時間帯	詳細を研究室のドアに掲示 *お昼休み時間を中心に行きます。なるべくアポを入れての個別面談が望ましい。オープンゼミ(木4限)にも必ず出席して、ゼミの雰囲気確かめること。
ゼミのテーマ	国際日本研究
ゼミの内容・メッセージ	多様な「日本」のすがたかたちを、各地域の歴史、伝統文化、現代ポップカルチャー、そして海外との比較などから捉え直し、英語で発信する、というのがゼミの目標です。目指しているのは、究極の「雑学(=教養)ゼミ」! (“プロジェクト”に比重を置くゼミではありません)。 *受験時、「国際日本学部」、「グローバル(国際)教養学部」、「文化構想学部」などに関心があった学生は、ぜひ本ゼミの検討を!
ゼミの進め方	「日本」の捉え方は人それぞれですし、また「日本」への学問的なアプローチ方法もさまざまです。そのため卒論のテーマは、基本的には(文学研究者である私が指導できる範囲で)何を選んでも構いません。 とは言え、その間口の広さが、ゼミ選択のミスマッチにつながりかねないので、お互いの幸せのために、以下の点に注意してください。 1) 担当教員は、文学およびビジュアル文化(映画、絵画、浮世絵、マンガ、アニメなど)を幅広くカバーしていますが、いわゆる“オタク”的な興味を持たず、むしろ社会問題に強い関心があって(新聞記者の経験あり)、文化や芸術を社会との関わりの中で考えているので、誤解なきよう。 2) 最近の研究の関心は、物語とビジュアル表現の関係性にあるので、現代アートに興味がある学生を歓迎します。 3) また、「海」や「島」の文化についての研究もおこなってきたので、ハワイや沖縄、湘南の文化などを、メディアとの関わりやイメージの観点から分析したい学生の関心に沿うはずです。 4) 一方、本や新聞を読まない学生、座学の勉強はあまり好きではない学生には、教養ゼミ的な色彩の強い本ゼミは恐らく合わないでしょう。 5) 卒論指導は厳しいので心してください。文章を書くことにこだわりが強い、というか、卒論力=就活力とも考えているのです、わたしは。 6) 学生生活も折り返しの時期に近づき、就職のことも気になってくるでしょうが、会社(をはじめとする組織)は入ってからがむしろ大変(特に人間関係)。社会に出ても折れないしなやかさと強さ、したたかさを、明るさを大事にしなながら、身につけてほしい—そのためには、やはり勉強するしかないのです。 7) 「失敗したこと・負けたこと・できなかったこと」を直視することから、人は成長します。要領の良さや、見かけのコミュニケーションのうまさで勝負するのではなく、自分のやりたいことにむけて、努力し、継続する意思のある学生にぜひ来てもらいたい。若い感性や輝く(あるいは秘めた)個性との出会いに、わたしも大いに刺激を受けながら、指導にあたるつもりです。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ合宿(3年生対象)は全員参加が原則です。
ゼミ履修に望ましい科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」など
定員	10人
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接および好きな映画か小説(一般書でも構わない)についての感想文の提出 (800字程度) *感想文は面接のときに提出。
ゼミ受入決定者への指示	オリエンテーションを実施します。
代表的な卒業論文のテーマ	コンテンツツーリズムとしての文学散歩、アニメと聖地巡礼、女子トイレ進化論、カワイイは正義!、航空業界と若者ブームから読む現代の神社 など

担当者名	山崎 裕子 (やまざき ひろこ)
e-mail アドレス	yamazaki@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6410
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4 時限目、5 時限目
担当科目	〔春学期〕 哲学、倫理学、キリスト教入門、 西洋思想と国際社会、新入生ゼミナール 〔秋学期〕 哲学、倫理学、キリスト教文化と社会、基礎ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	月曜日 (お昼休み、4 時限目) 木曜日 (お昼休み、4 時限目、5 時限目)
ゼミのテーマ	世界の文化と宗教を哲学する
ゼミの内容・メッセージ	世界の文化とその発想法を理解し考える力をつけることを目指し、宗教 (主にキリスト教) と哲学について考えていきます。 これまでの 3 年次生共通テキストは、『ソフィーの世界』『キリスト教の教え』『4 つの愛』『選択の自由』『嘘の人間学』『真理論』などです。読書を楽しむだけでなく、読書を通じて、著者とゼミ生とそして自分と対話してほしいです。 自分の周囲の事柄を当たり前と思わずに、「なぜ」と問う姿勢が大切です。
ゼミの進め方	1. 3 年次の春学期から秋学期の途中まで： 共通テキストをゼミ生が交代で発表。哲学と宗教の本の読み方を習得します。 この間の成果は、3 年の秋に、簡易製本の小冊子にまとめます。 2. 3 年次秋学期の後半以降： 各自のテーマに沿って発表を進めます。「なぜ」という問いを含む内容であれば、哲学やキリスト教の内容でなくても、O.K. です。 3. ゼミ論文は、完成すると卒業論文となります。
留意事項 (Requirement など)	山崎ゼミでは、ゼミ生同士のコミュニケーションを大切にしています。楽しいゼミにしましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	個人面談。意欲と適性を確認します。
ゼミ受入決定者への指示	入ゼミ決定後、全員で一度集まりましょう。日程は、こちらから連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「時間の意味」 「宣教師と東洋布教—布教政策に見る異文化理解—」 「日本人の宗教観に関する一考察 —タイとフランスの宗教事情と比較して—」 「ナチドイツ支配下におけるユダヤ人とキリスト教会」 「人は他者を愛せるか」 「幸福感を得るためにどのようなことができるか」 「鬼の正体—鬼物語とその本質—」など。
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	山崎ゼミでは、思想だけにとどまらない哲学を学ぶことができます。 少しでも考えることが好きな方、宗教に興味がある方、ぜひ 6410 へ足を運んでみてください！ (3 年ゼミ生より)

担当者名	山田 修嗣 (やまだ しゅうじ)
e-mail アドレス	yamashu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6209
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4 限・5 限
担当科目	【春学期】 地域調査演習、景観と風景のまちづくり、応用演習 【秋学期】 市民の環境貢献、環境コミュニケーション論、 統計調査の基礎、国際化・情報化時代の社会学
研究室を訪問できる時間帯	火曜 (昼休み)、金曜 (昼休み) など (詳細は研究室に掲示します)
ゼミのテーマ	「まちづくり」における市民参加と地域社会 ～「望ましい社会」の形成における市民の役割と持続可能性の考察～
ゼミの内容・メッセージ	まちの望ましさの実現 (社会問題としての環境問題をどう解決するか等) を目標に、これからの地域社会を構想するのがゼミの共通テーマです。まちづくりを、1) 市民の地域活動と地域形成 (参加と決定を含む)、自治体の地域づくり施策、環境・市民教育、企業の社会的貢献等と関連づけ、2) 国内外の諸問題や、より身近な生活・文化の比較考察を含め、3) さまざまなまち (地域) の姿を検討します。社会学を土台に、参加者と議論しながら考えるスタイルです。可能なかぎり現地調査も交え、市民活動への参加を通じて体験的に問題解決の糸口を見つけます。まずは、なぜあるできごとが問題と考えられるのかという話題からスタートします。そして、私たちのこれからの「社会」について検討を重ねていきます。
ゼミの進め方	月に 3 回程度、文献購読を行います。発表者はレジュメをつくって報告し、その後、全員で討論します。発言のない人は出席と認めないルールにしています。また参加者は、(研究) プロジェクトチームに入ってもらいます。このチームは 3・4 年合同で編成し、卒業研究にむけた具体的な準備をするものです。月の最終週をこの時間とし、年に数回のペースで報告会を開きます。合宿の他、地域社会調査や実習、海外研修 (希望者のみ)、他ゼミ (他大学) との交流を行うなど、現地体験の機会も作ります。
留意事項 (Requirement など)	みんなで作るゼミを目指し、4 月に全員で年間方針を決めます。決定後は、この方針にしたがってもらいます。なお、夏合宿、他大学との交流は、原則、全員参加です。
ゼミ履修に望ましい科目	とくに定めません。
定員	11 名 (学外での研究活動を実施する予定があるためです。)
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	もし定員をこえた場合は、選抜方法を連絡します。 研究室のドアにも掲示するので、よく確認して下さい。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ開始前に顔合わせを行います。日時は個別に連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	研究室にて、卒業論文を閲覧可能です。
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	オンオフがしっかりしているゼミ。基本、生徒主体で進めていく、自分を高めるゼミ。市民討議会やローカルファースト研究会など、普通の大学生ではできない経験が出来るゼミ。しっかりした勉強が多いゼミ。雰囲気の良いゼミ。4 年生と 3 年生の溝がないゼミ。

担当者名	横川 潤 (よこかわ じゅん)
e-mail アドレス	jun-y@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6413
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4,5 限 6226 教室 (ゼミ期間中)
担当科目	【春学期】 国際観光とマーケティング、観光マーケティング論 【秋学期】 飲食店企画論、国際食文化論
研究室を訪問できる時間帯	昼休み (月・水・木) ゼミ見学希望者は木曜日 4,5 限 6226 教室 (予約不要)
ゼミのテーマ	ホスピタリティとフードのマーケティング ～企画力やプレゼン力を身につける～
ゼミの内容・メッセージ	【《横川ゼミ&企業コラボ商品》プレゼン・プロジェクト (3年秋学期～4年秋学期)】 経営者や市長等に対し、本社 (または市役所) におもむき、《横川ゼミ&〇〇社コラボ商品》の企画をプレゼンします。 過去いくつかは商品化のうえ販売され、メディアでも大きく取り上げられました。その成果は就活でも活き、ANA や JAL 等エアライン、星野リゾート等ホテル、HIS、JTB、日通旅行、JR 東日本等トラベル、ブライダル、コンサル会社など、人気企業の内定・就職に結実し、実社会でも活躍しています。 【「外食インカレ」論文・プレゼンコンクールへの応募 (3年春学期)】 2～3名で1チームを組み、「賞金 30 万円」獲得を目指します。 3年生秋学期から本格的に始まるプロジェクトの準備や就活対策も含め、発想力、論理的思考力、発表力、コミュニケーション力等を身に着けます。
ゼミの進め方	【2,3,4 年生合同 新ゼミ生歓迎会 (2019 年 1 月)】 【《外食インカレ》コンクール応募 (3年生春学期)】 ※6月に学会参加 【《コラボ商品》提案 (3年春学期～4年秋学期)】 ①試食会&社長懇談会 (計1～2回) ②ゼミ内ディスカッション (毎週) ③対経営者プレゼン本番 (半期で1～2回程度) 【研修旅行(3年秋学期)】 京都、大阪。レンタル着物で高級料亭に伺い、日本文化の精髓を体験。大阪ではユニバーサルスタジオを訪ねます。 【卒業旅行】 ニューヨーク。人気テレビ番組や映画でも登場する有名レストランや Dean&Deluca 本店などを視察し、2年間の総まとめとします。
留意事項 (Requirement など)	強い責任感を持って、真面目にグループワークに打ち込めること。この 2 年間で一生に渡る友情を育みたいと、真剣に思っていること。
ゼミ履修に望ましい科目	特になし
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接。主として、熱意、明るさ、素直さを拝見します。(未定を含め) どのような進路希望をお持ちでもかまいません。
ゼミ受入決定者への指示	受け入れが決定した時点で全員の顔合わせを行い、その場で指示します。
代表的な卒業論文のテーマ	マーケティング分析と戦略的インプリケーション
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	横川ゼミは活気に溢れていて、分け隔てなく誰とも仲よくなれ、根はまじめな子が集まったゼミで、やるときはきちんとやるゼミです。企業と連携して新たな商品、サービスを提案して世の中に発信することができます。それに向けて毎週グループごとに研究プレゼンを行っています。そのほかにも学会や食事会、ゼミ旅行、企業訪問などもあります。就職先は必ずしも食に関係なく、個人の希望する先に内定(トラベル、ホテル、ブライダル、エアラインなど)をもらっています。卒業旅行はニューヨーク (*^▽^*) 仲よく、楽しく、何かをやり遂げたいと思っているその君!ぴったりのゼミがここにある¥(^o^)/

担当者名	渡邊 暁子 (わたなべ あきこ)
e-mail アドレス	watanabe@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6305
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4・5 限
担当科目	国際協力論、紛争と国際協力、地域研究 (東南アジア)、文化人類学、農村社会開発論、フィールド調査法演習 (大学院)、開発人類学 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	月・水・木 (昼休み) @6305 ゼミ訪問は木曜 (4~5 限) @6305
ゼミのテーマ	「文化人類学から現代社会の課題を考える」 キーワード：貧困、格差、社会的排除、人の移動、マイノリティ
ゼミの内容・メッセージ	開発協力だけではなく、政治や経済、自然現象など様々な出来事は、社会のあり方や個人の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。また、個人はさまざまな制約のなか、何を大切に、どのように生き抜いているのでしょうか。それに対して「私たち」ができることは何でしょうか。 開発協力やまちおこしを含め、他者とのかかわる際に、その地域や組織、人々について学ばなければ始まりません。本ゼミでは、学びの手法として、文化人類学をベースに、個人、地域、歴史、関係性の視点を大事にします。 本ゼミでは、一つの答えや解決策を見つけることを目指すのではなく、人びとに寄り添い、それを取り巻く社会の問題群に焦点を当てたり、多様なアクター間の相互作用で作り出されるプロセスを分析することに重点を置きます。テーマは海外の事象に限りません。国内活動と国際的活動をつなぐ知見と実践知を深めていく学びの空間をつくっていきたくと考えます。
ゼミの進め方	3年次：春学期は、基本的には、テキストの講読・担当者による要約・問題提起・ゼミ履修者による討論を行いつつ、それに関連した調査・実践 (学内外) を企画・実践します。秋学期は、履修者の関心のあるテーマに沿った研究発表および議論を中心とします。1年をつうじ、履修者が自ら「考える・調べる・伝える」を一通りできるように進めていきます。今年度は足立区において「子ども」「外国人」「高齢者」の3つの視点から、その社会的支援と課題について、フィールドワークから理解しようと試みています。 4年次：卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたてます。各自のテーマと内容について討論形式で進めていきます。10月に卒論合宿を行い、互いを励ましつつそれぞれ一つの課題について取り組みます。その一方で、学内外の人びととつながり、ゼミ生有志による「ボーダーフリー・ファッションショー」を学園祭で企画・実行しようと取り組んでいます。
留意事項 (Requirement など)	これまで3年次の夏休みに、任意参加で海外フィールドワーク研修をフィリピンにて実施しています。 <u>実施の有無や内容について5月中旬くらいから決めていきますので、一緒に検討してください。</u> 本年度は8月23日~9月1日に「社会的マイノリティへの支援の実態および課題」をテーマに子どもの保護施設、スラム地域、国際NGO関与の再開発地域、社会的企業、ムスリム集住地区にて、課題と体系的な支援のあり方 (保護、支援、自立) について聞き取りを行い、高校生や大学生を含め、同世代の若者と交流を行いました。
ゼミ履修に望ましい科目	「文化人類学」、「国際協力論」、「NPO・ボランティアの理論」、その他国際学部に関連科目を履修していることが望ましいです。
定員	12人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接 (上限を超えた場合、面接日を設定して連絡します。) 希望調査票の内容を重視しますが、目的意識を持っているかどうか、周囲と協調して活動を進められるかがポイントになります。学科の異なる学生がともに学ぶことで得られる相乗効果を期待したいので、特定学科を優先することはありません。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入決定後、年度が変わる前に、顔合わせと今後のゼミの進行について打ち合わせを行います。ぜひ参加してください。
代表的な卒業論文のテーマ	スリランカにおける内発的発展、出産をめぐる現代女性の人類学、食糧安全保障と日本の取り組み、LGBT という言葉の広がりとその背景、フェアトレードタウン運動、海外出稼ぎ労働者と貧困、など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	信条は、ゼミ内でも国内外での調査活動でも、人との繋がりを大切にすることです。アットホームなゼミで、発言も多く、みんなで仲良くしています。また自分のやりたいこと、好きなことを学べるゼミです! (3年生)

担当者名	A
e-mail アドレス	
研究室	
出講日	
ゼミの開講時間	
担当科目	英語科目 (EIC、CALL、ESP)、新入生ゼミナール、基礎ゼミナール、応用演習、専門ゼミナール I・II・III・IV
研究室を訪問できる時間帯	
ゼミのテーマ	外国語教育
ゼミの内容・メッセージ	2019 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際理解学科の阿野幸一先生までお願いします。
ゼミの進め方	
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	B
e-mail アドレス	
研究室	
出講日	
ゼミの開講時間	
担当科目	異文化理解、国際理解とコミュニケーション、開発教育論、地域研究、新入生ゼミナール、基礎ゼミナール、応用演習、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
研究室を訪問できる時間帯	
ゼミのテーマ	異文化理解
ゼミの内容・メッセージ	2019 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際理解学科の阿野幸一先生までお願いします。
ゼミの進め方	
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	C
e-mail アドレス	
研究室	
出講日	
ゼミの開講時間	
担当科目	特殊講義H（観光学概論）、特殊講義I（観光政策論）、キャリア形成基礎、新入生ゼミナール、基礎ゼミナール、応用演習、専門ゼミナール I・II・III・IV
研究室を訪問できる時間帯	
ゼミのテーマ	観光学
ゼミの内容・メッセージ	2019 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科の小島克己先生までお願いします。
ゼミの進め方	
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	D
e-mail アドレス	
研究室	
出講日	
ゼミの開講時間	
担当科目	
研究室を訪問できる時間帯	
ゼミのテーマ	ホスピタリティ
ゼミの内容・メッセージ	2019 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科の山口一美先生までお願いします。
ゼミの進め方	
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。